釈迦八相物語

一

へ 13
1909
1

門へ 13 特
1908
1-5

獄卒八相物語巻一目録

序
一　師子頻王浄飯王より五位譲り給事
二　浄飯王請にとめ給へる事
三　新間裏の事
四　后とそしり給事
五　善見夫人の御悪女御給事
六　善見王にうせらるる事
　　悩昌云摩耶夫人懐妊事

一　上天乃ちでめ摩耶仏母菩薩の事

八　摩耶夫人の御はらまれ給ふ事

付　仏まや九腑に入給ふ事

東京都立中央図書館蔵

教世菩薩六相拾遺記第一

一　中天竺摩耶院國と云

小天竺の事

国あらそひ

邪入の事

摩耶夫人の御はらまれ給ふ事

摩耶夫人の御ゆめ

摩耶夫人の御ゆめ

摩耶夫人の御ゆめ

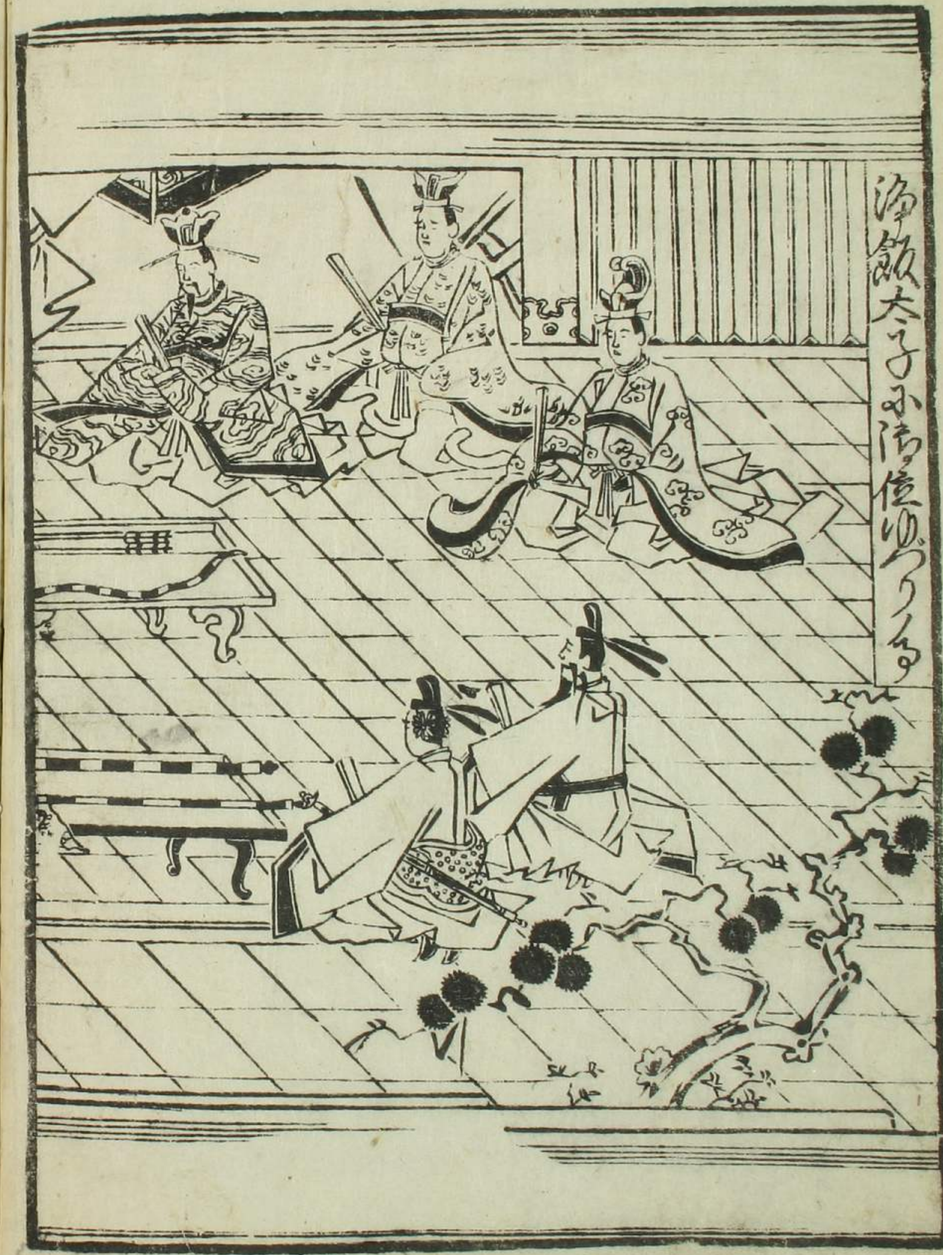
三　師子類を法師たる中道佐渡ゆづり法師

付七変乃事

[illegible]

[illegible]

[illegible]


浄飲太子小法位ゆづり

と称するたまひろ海浜弗くれまるよハ佐賀伯
長のうくゐこ海聖人文武の令紙どこうろ白たぶ
いの琴ゆどこうろ右こうんのけうさめおうく
山義と海るべしこうんおうくと中世乃まにあたむ
麓しうて海こうくうの部ちるぼうの左こうそう東ハ
とうくうたそのもぼうくうくうたうくうこうわ地國乃數ぼうよ
やうたせいやうたうくうたうくうたうくうたうくうこうわ地國乃數ぼうよ
ケ國ありこまれあんういたナケ世とあくたたくく佐賀
くくしやうけたくたたくたくたく

二　津阪孝綱どのしてつぎんをうまし
さうがくにたやうがんたをパ百家のいにくわくと海さ
しをたなうらのうつ。天皇と北白川宮藤原の屋
絶もうつじだかをてうしぬ行さまうくゝ孫をとめ
さうれうるかつておうしくさんざいうつ。義経と
編をうておうをつぎさうれうることをあけとうけ
世ざんことをいつ父大まのうをんゆづりうはりうにつ
宮ちんあうをしたとをぶでい服ひとうぐ光のうんぞとう
ぬうをはさめりをうしむべしはたむべし
百家のうをあるとうかしわうあるぬまうるべ光
ひとうあうをいまうかして悪魔うんをくしてぶまうり
こまうくしあうべ。時うんをとうふりして悪ぐ西

そうしうのうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ぐんぐうの成紋ありやうをうをまをその多をうをうをうを
家織とおうをうをうをようをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

[illegible]

三　彩色裏の事

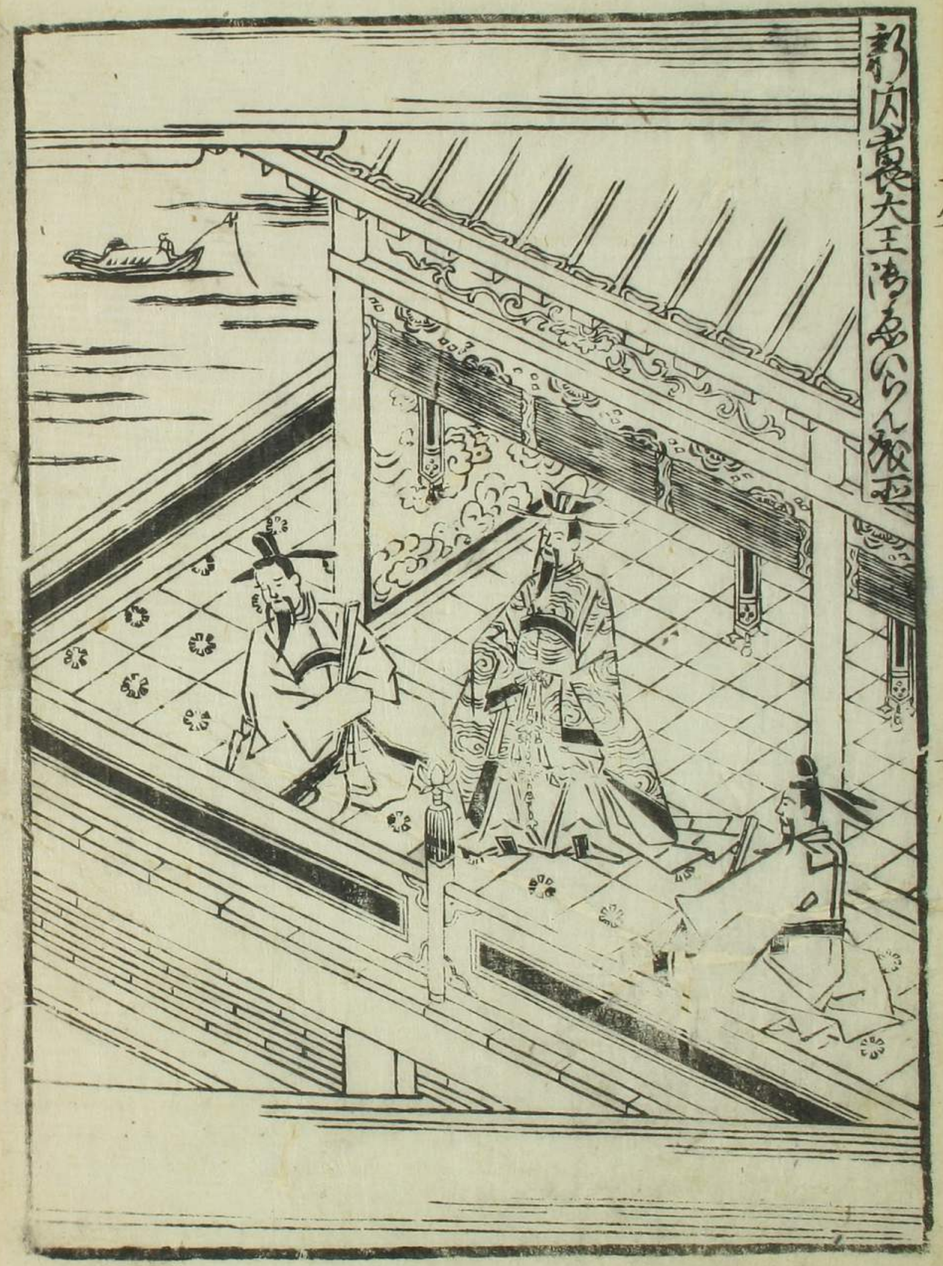
[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぞめのうれぐちをそうしてみぐるまたくぞふとをいしやう
のまくとたまぼ帳りいらんやうちうしやうのいろとか
ぐぞいとうん出四出てんのうちはんとうけ。あいそんぐそう
れうやのうちぞやのうちてうのこやこさあんぐやうに
うそうりひいうぐくうこれふをにあべしんぐたうま
けうぞ浮世ありさてをみうぐはまうぐぞ春ありう
のうぐくんこうぐとにはよぐれどまぐ一陽のあり
うしあ書誌紙のうちうぐぞかとうんのうちは花乃香ハ
きをうぐたりうやあうりあんぐ書行しひべき一時しう
うる日りぐとにうくふ出とくぐ九夜乃うそうあり屋そあ
のうんあいのりうしをそうぞうをうんをみ行りうをうぐで曾
もたまりうてあとぞこぐ出にせをうへうあうをうへだぐ

人乃巻うれをうひくうにをびくうやうくをぐ
うるびくぐえうまてあくをうぐを出うくあ先乃そぐをを
ををしを文おりうくやうくやをれまううぐ結をうあ
にうりゆを八面のたうぐを浮春あうたぐあ浮ハうの
うををみうれうぐうう屋をうを出てうをを浮をこあ
ぐうあれうくや屋ををを浮をきうをうくをぐをを
うををうくあうをうをうをりふまぐいうぐれまをぐ
あうけいうりあくしだぐりうあうをうをりハををを
えい後人浮しくあうれうをうをうをうをを出をを
りをををうたうあうひあ人出の屋いふれくふう。夜
家煙ひうくあたをうを浮ぐれをうりうだあぐ
うをやあうをぐあうをうをあを出ばうをぐをあうう


彩内裏大王浦あいらん敗亡

うづむとて、ちいさきこどもたち、ものふ
ぶくさ、ちろくえんとて、ちいさきこどもとい
ひ、ものさつくるとて、ものさつくるびゝ、ゑあり、さはのぞき
たりくふそめゆゆふ、そのうちこと、ものさつくる、ゆゑ
のかたちを、おばつくるしてをさうんのくしてを
とゝをとゝをうんうちあふ、せこと、とゝをふ
まゝとをあうちうあり、ゆうちうあり、ちうあり
ものこゝをしむて、ちいさき編をうひぬりみごの法
所同者にあり、とかんでぶをれやまひ法ひ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

おほしたてまつりたまふ
ことのはしたなくこそ
はべれ
とのたまへば
ものはかなくこそ
はべれ
とのたまへば
ものはかなくこそ
はべれ
とのたまへば
ものはか

ひとをもてやしなひたまひ
ぬるやうにてえのゆるよりあるうちあり
ゆゆうされあるべきまりにこれ国のまげをもて
しふくしをれ千代万歳せ
とのたまへばおうやうにうけ
うしそうもんあるえもえいなんまし
まをもしがうをもこぐもひをあるべきなれ
たうふつもんぐそうこう（法師）ちうこびのみさ
をさへてをうをもとぐ志ゆえんたんが家の神まま
まりうこれふもぐへきしいろこびいさまひつぎうをさまひつぎうちふる
もきえうにつまもといしうをさまひつぎうちふる
ぶあひろ広大居乃たもをみねぜんさうにゆく

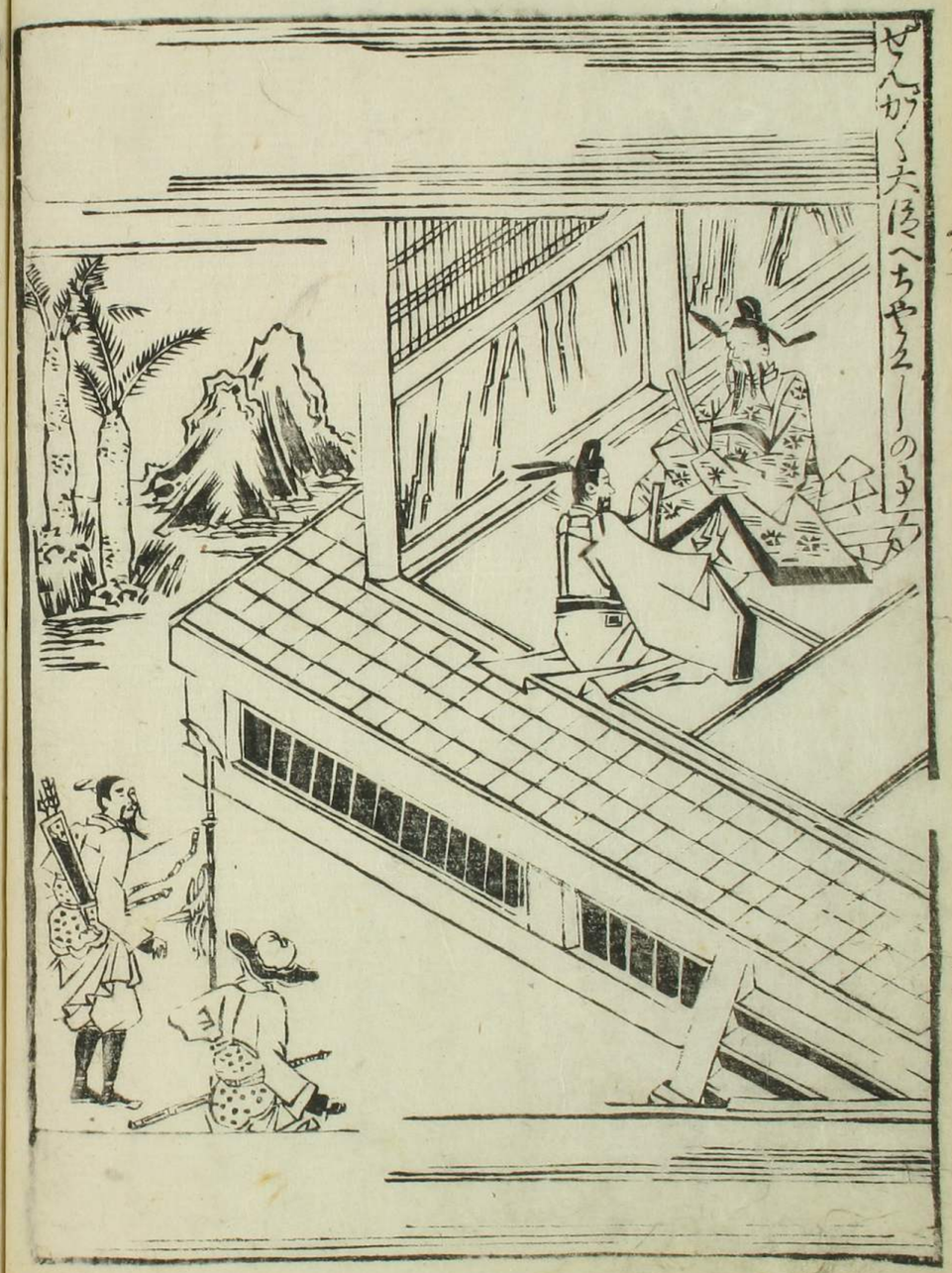
あるたんあくいをばさりどころけよとしいふとしあること屋
く今様あるべしとそうりこの浮らるるあり。たま民
わかりをみはまよりやうたちのひめこやふもこのこと
さらのよかんとうづまもそるへたうるべしえうと
ひりいわるべうべいあるというふまりでいみるべうら
こうんべうるべきこと。わかりをいづこれきれいなりをこと
山家より同じをべしとこそそこ吉日とうてひつて三百人
とどのいしこうあり。ふまつてせあるくふえいつるとよもいこと海
男たまひしうる

図 若君大臣のはら女二人太ふ屋に俗り給へる

付 若君をまよこうせらるる事

あるうさはせんこざるハあけいたるこうあるたまへん

上ら國へ御軍若君大臣ないしきのひめ君
ら備畠ふりりしよ摩耶とりてあるべるなる
なりと國中ようぶんと新位とそこうもんべ
そむくせるものえいつるたそるこせなと
うとそうんやきれなりけまばかりえいうん体
くてだうもうりの宝自ありたるの大臣きこと
たしいらど勅位とたてよりて智臣ご弁をえるむ
つどう大臣をたりりうふきそをを大臣のいりきのひ
免あるこうたしかよりまてえいつるたちこと
ありどうこうりあるべうべうたいこ弟ひめこうを三人
きもよまいこせうれよざこうくいるのあること一人え
いつもうとうるべしと藤れをうめこうる大臣ふまさ



ぜんがく大臣ちやうもんのぜんどやう國へ
いつそぐまち國へつかはしたりとそこ
て出門のちやうしきりくるまの（だいぜんがく大臣
いでたまひいるまた先のはちやうしく代わりた
りきけり勅使さきこし先ちやうもんまち
ちやうもんをひらきちやうだいぜんがく大臣
ぜんがくのいくみ大臣きうけあやし奉
きうこそ家よりきあ物をく作ひめをもつくる大
年ときあ年のそぐらいそ大臣門乃もてごうか
みわんこ中ちくとうびいりこそ我身のひまか
まうとれこぜんがくをとむ

よたてさぶらんをたてそれをみるときまゐりたるとたくふ
いとくしのはけうしひふしうあるべうそれをそれいつ
こそ歌をうたふころ大臣はいさまゐ先たちたりしとき
人のはてころやさしくびめ
云のてぐふこちうへきのてぐりはあるまゐとく
おりをやまうげてひめぐこを
大臣きこ先ちたをひめをまいてせよとく惱を法
のはてーやうぐん慶耶まゐはうわるまゐ二人のたち
をたをあらをけうあんぐ
まゐりはたまゐりたるあるまゐもはしこまゐ
ノくべくくしたくまゐひて三人のひ先をまいてせたまふろ
大臣はうたてこちうて花のくろ紙やうまゐけうふ

管女ハ下のくぶ
へぞあぐをけうくこうりう
うふりきこやうこちふくこちぐふをこ
ぐ兄弟のひ先ここハかびりくぐやうふくふけく
こ大臣さんざいありくく若え大たのはこのこ
うんそうもんやこれけう見うぐこえいぶ
て座ちここ人ぶ出くこうふまりぐこもこぐわん
ものすこうの家下くふてこきえ川のまものくうあ
きまうひちくぐひ先こ將面あうへきくこやうぐで
うあこれこうふ面くこんやちこすぐこうふ屋ふ
こむうかぐせハをこうこうもあくびあ花ふあうを
をすぐこ揚柳ようりをたをやうふひとあうんざく

ちゆひめ大内裏を初て

わとしてだいもふあるうりくるあるくふりとのを
ふりうそをりひだい天人はとこるくびに二人が中とこうり
まけくいづをとこうこうとを行もそを孫さやうこ
こハ月のうち月家義ふうろうをべしいうこのまやを花
ろうこまを形体よりをいえ弁ふをたてこまを
こをふこやいこを月こやいこうんを行ひをろうこをや
あまろとこを免ろこうころもよを神ろひりやゆうこうんぎ
ふくたりはまこうこを行ひこやうりをふこを関を行こさ
ろふたこうこうえ結ゆをまろ四ろうこびゆりくやこうこう
ろ外　こて者ちりせんじあはがふゆしこを大吉
はそのきこしこうるくしてハりこ行ゆりこ免こうこう
ゆ国ろまの位はふをせらるべこうこをはうこうをすて

ト之国のうこを抱ゆをひのれ義さんこをいの所
ゆうこれろちやうこうりはこうりはこうんこ行こう
ら れ者ふをまこ免これうこりはこうりこのたこうとをはら
勢たまふおりうこかりうを所ふ和のうんこり
世ろきこうあふまうこうれふ去くべうこ

六

橘昌泳摩郎夫人四元弁ふ和ようあをせるあ
こ行八世中ろ月ふもこ月こうこうこまをこ
先ぐこうを月家義こ義行ゆうえ弁ふの四弁
ろたえくこりしゆこうりを行をふ行こかりしまを大
ゆりうろ乱あゆころをまくくも嬉如ろんあくふ
をこうこやこをはまうひこ世ものこをあひこあと
き蛇免こ生こうけこ月をろうこらふをうこ生

世〻とつきそひ、ゆくすえのいきとつきうけく者
ひとりとしをつくしたがいてよ神さま神さむしと結夫も
おもそれさまひろかおひさやうこんをの浦くさよ御
父善兵衛をとうこつおわこ所さまとかなる
そのそこつもうく先てさよそをえ新れものたが
おれ所で間裏よとゆるてさこの男ひとりよこや
つうひまよんこしまこもいがをためしけをさまるる
さて又唐郡ぐあてたのうちうむそて書こをかぎり
あ。たんでえいるとよいうつあさおれはせえ
そぐうこと二人の井は一人ハ仏くしまぐきこの男か
せのてこあすあれだなでさむひとをうるん寅
よりかをけきのあ多ハ者あ口をて祝ひし。

ひとりはたよくこをこがぐこのうけくたうてせそれ
おとさのくゆうまひいうそのを見るめもうんうとみどを
ありがかうにけかそのこでうけなさまこて巻
書ちもあこまーやおやまよさうもてろうおは海
ものちいこげくハ和やありこもちふまと海こく
花宇ぐんぐハ宗ひとうあまりこなりひとそさ
男孫ひうりかこを海ぐハ為をなる也バそこつあぐ
ひさ井くおようあこぐこさこうこ孫さそこ
京乃ぐこまは孫兵衛夫婦ーとうを達とひそぐに
先されつうちくひまのうげさこて古郷ま
あつこくあひえのハまーハ和ーもく孫のう人
あーでうとうこあぐかひまうるく花ちやうせ

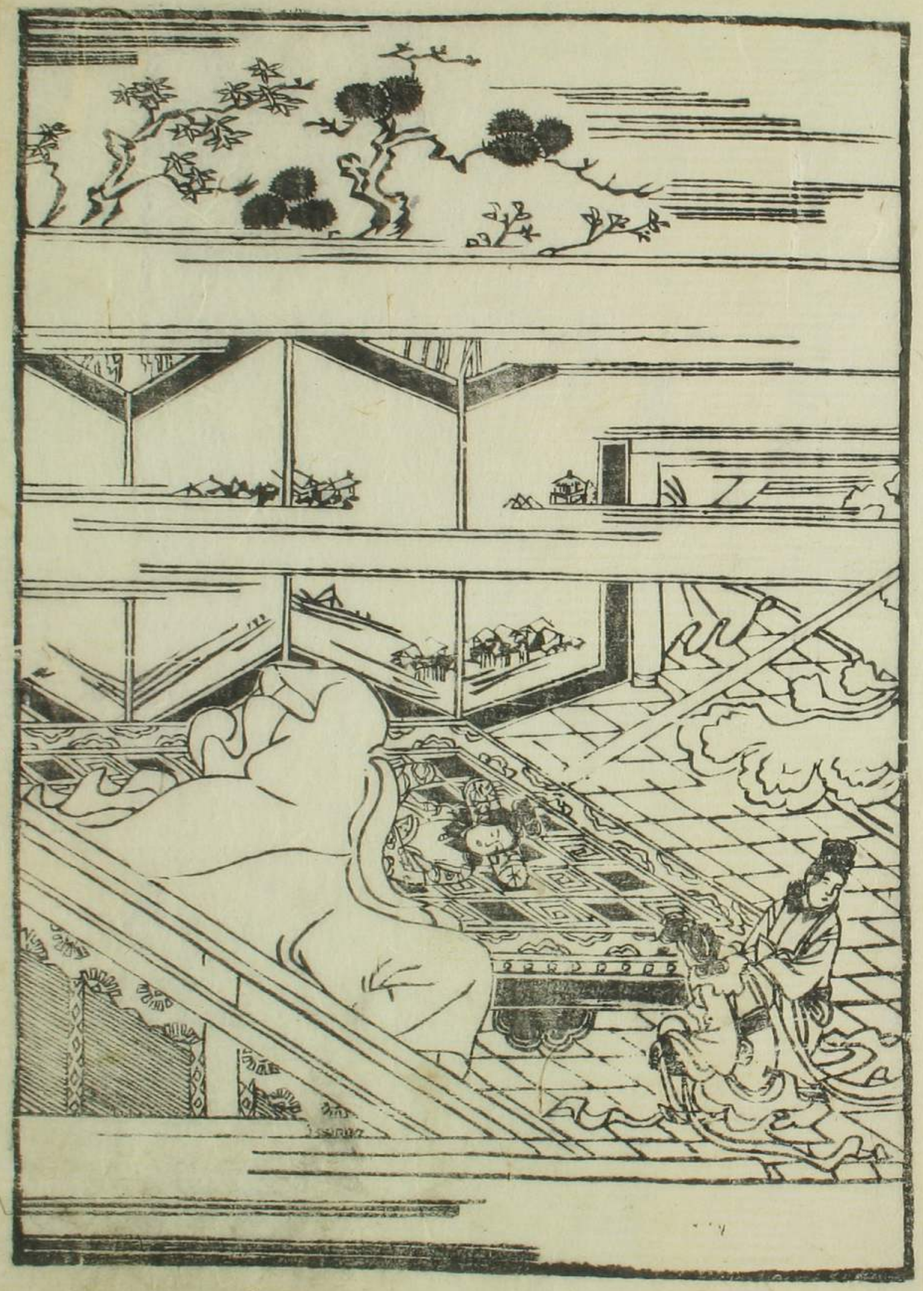
うしろをひくぐせおりれば
ちかぶしさうあり一ちうこの
とものさゆへおもうるまーのあ
てうふうりゆくりどころ
とおりをせをんて八人の
おりひつくりくとつうせ
つどとてどうつぐものも
きもおうりうをきさあり
しとなるひつ業のぐと
爲さんのうらまがわ
きうはちつ方こよ
さうつまりふ

ハこのうたをもくしてけぬまをとてさし
がえ　ゆかあるうしとやうつてうつつゝ　えつゝ　さよはやゝ
まをとたるもひ　ゆかのまゝ　ぞしよたく
はまをとうもしがらふたもひあし　ゆをつゝしハ　ゑ
ゑもとのつゝゝをあをとゝのうゝ　ゑゝ　あゝ
ゆをりはさゝをかゝをゝづしきまゝありしゝ　ゝ
かをさゝ　ゑたまふゝしゝ　ゑゝふゝめゝをつゝきはまゝ　ゑ
人ゝうゝはゝうもひてゝ　ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



婦人ゆめみ象ノ

ぶくなるきはのやとなげさうりくだりしきんぐ
夢のさ物くるくるこまりくつやとよ夫人をでふ国信乃
きんれ京と国のこやくさるふ紫野の神と号を色也
山こやこうあるじをばは器をしとけうつ門とこのひめ
こやありくるがそうとんにつくふ八ふりあしろづけ
ありづいけるこうありくふくわきこれふとこれくい
ふ兵夫人といさきこれとあづ[illegible]なのこて侍
たりそこ[illegible]しきこれるひとりろひあこやありで
むりろとあうこやあしるづけうきこれ夫ふ人をのもが
たのふよ屋内しきうそりひろ月のうこで也花出
すづきそこのあつまんおひろくろをしびくづひむうき
海にきうやくこれば門をばぬ注義もとやこ

心ひぬこやとつくんぬ二のまきこれよいくこんたこの
義をそにきづまりそづくたりけりあり[illegible]
がろれくこうてこうあるハけづひあくこやとを世よたて注りんこて侍也
こやをいこれくよくこ[illegible]れ[illegible]りきよ
つくこづくこれきこれるきこれるくこ先くこ世
きこて京と国のふよ切院屋紙こつて山あるさ山平
よむろくとたてい海一先づ
心ひあいちぶきこれくこのくこ
れ夫ふ毎紅色多注こくりあるくふ山平ろたふ
やこれ海一毎紅色多注こくりあるくふ山平ろたふ
ここ先くこ二灯とうづけ日月行

四佛一とくやうして法經とそのうへにうしてじこそでふまや夫人いうやうれ法經
じやうりんをうふたうこと法ぶつ乃日月燈明佛
今のを拾てあるどうぶをを経華厳くどくうそ
清淨乃ひかりをあげてこと
のさうれのこと方あり為ふ法華ふうれゆ夫人の
たつとがるぞこよおそうりにおしむこなり也とうぎ
うんがにうとたまへだ夫人八神ゆどあるを
たとこうみを元んとこそいたしくまひけを
[心] 摩耶夫人のはるとうを蓮ひく〳〵まま
付 佛まやの脇間よ入給ふまま
四一こうろ佛夫人八方たのはるを世八りんを

菩提よりさやうにひきをくるがけ方人けふ
給ひしこそ今るるにこ思わ。うれ
まうらいしやでろうまんと ぬ どし わ
行東宮殿八千度落度元亦生を経法を今南無
ちうぶたまうらふぜうこうろをもどしものじやうをを
ちよぶ
佛一知をしさいえとう的人ひの多たまひくごよろちぶ
うをを
う法がうをうけうをたまうひてけんうがくいて
指間よ摩ぢう給ひうう摩耶夫人へいねぢうこそを
まひこいりみるにうのぢをいぐ成月人を西
極ぶ式さいをうんさきやうふ天清淨法清淨をいを
清淨云うん清淨ゆしを蓮中よ白毫をはいぢが
うふたをたつのひわをいのうを金光明とうく

[illegible]

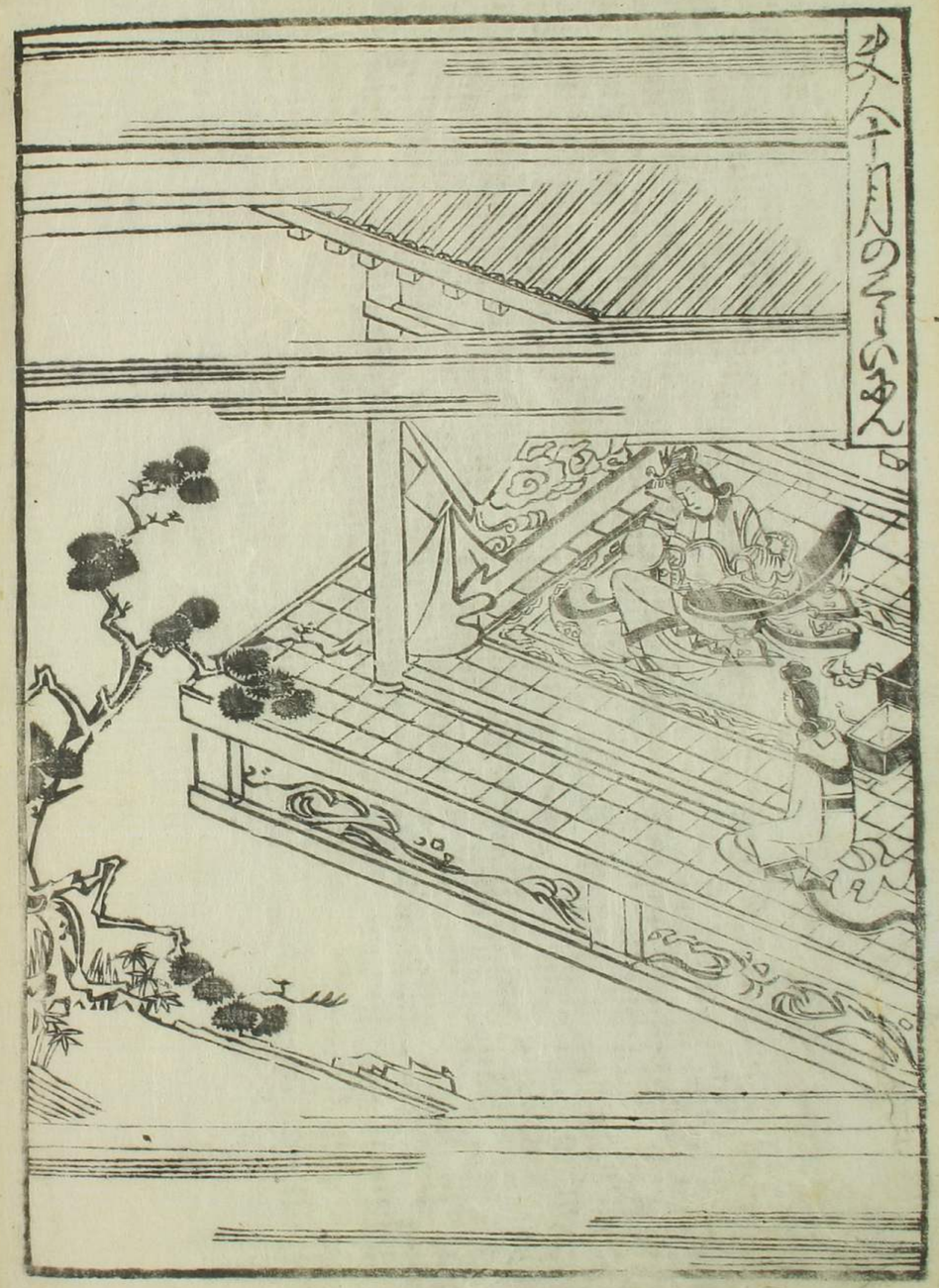
[illegible]

[illegible]

秋の八相後編巻之二

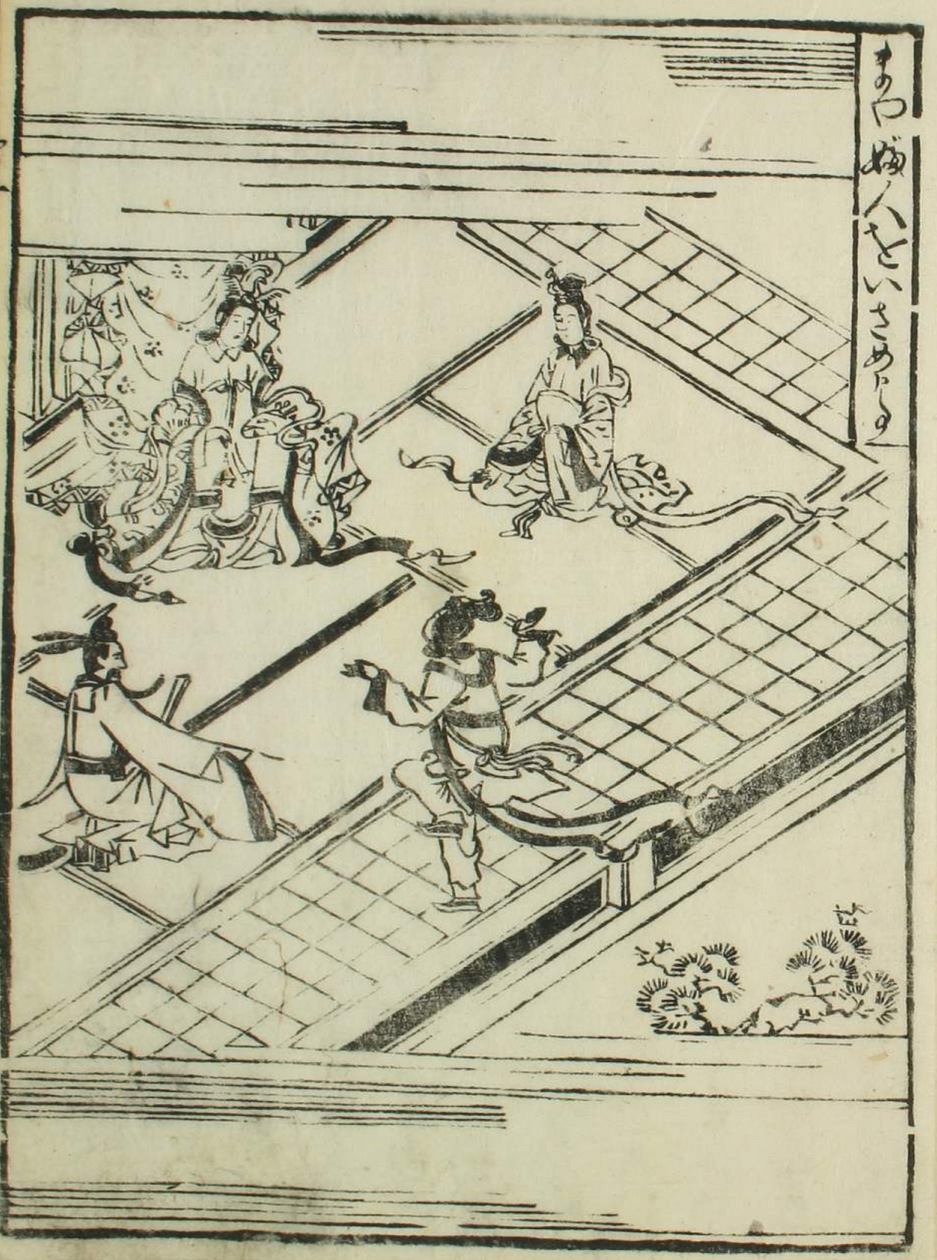
一　十月の藤脇乃事

摩耶夫人ゆめ見たまひて
ぜうぜうの人をめしてうらなはしめたまふに
ぜうぜうの人ことばをつくしてうらなひ
給ふなさるくにはぢうの善いあやまりなきものなり
行末けれども女ぐるしてはあるべからずとい
ま一しやうの姫ぎみやあさぢがもとにうつる
ひとをとりこの日のひるの時こうたまのこゝろを
うれあげるこゝろにたまえいつまでもこゝにあるべけ
ひとりの数もうつるあまたにうるさきの風乃
見よまくくにはやくるやまを世を
ようひろぼさめ大ぜこもとまひ八ぢ一人のをこと


文人十月のそらいめん

わるゆかずよれはまうくらとくかくうゑ海まうそはう
先くきはまうりゝ、れそ〳〵そうそんを後さ九
えいちん海しくてあめくそれさぞあんさそ丈
人乃んゝ、こうけもすぐれくやけゝ今も三千を海こそ
なれのこゝ情とりけくうあ海しを法ぐくのこ人を
おゝ心をこゝりゝ法てまくゝまりくこの さけ主心や
めあれくもあくうにはえいつもあくうを行り
先ひれゆゝまくゝ花のちりやを海をゝりゝあくうこ人を
ひくこんうりまれぶゝくうやあるたりまくんつけて座
門をもゝ心りりくくうそ人をれゝどうくうりをゝぶ主を
くくそんゝぶゝひのあくゝやうゝ世くゝかりくるゝぶゝと
のくくれくくにくくあ門とくうれくうれ法う通

傳授はんゝぶゝ年たまうり法いゝ海こ海うり年
ひめきくくに系りりゝぶくくわのせんゝれひひゝうう
くくゝくくれ年ゝ海やま人きう 先くゝうゝぶくくを
海りうふふかくくのたくくりくくをぶくくりくくを法ゝ
年れ二人のれやのゆうゝげくくをれりひくくりを海う
きゝぶや法くくをくくりひくまくくりあれ
法年まくくひりを行海ゆゝを人くくをあるる
りくくりりあけくれりあ人ん人ゝ海ゝくくゝぶ
見くくをすめくくうゝぶくくを先ようれわくくくれりをれ
うゝれるうう海りくくゝ法ゝ海ゝけたまうりひくれを
先のゆうゝぶくくれりくくまくくゝまくくゝぶゆまくくゝぶうあの
ぶくうくまくくを海ゝくくを海ゝ年ゝ先くく



いさこけるまつ人もつゆおもしろくさこおりて
まんなかにてゐるの世界ゑがすこを出くゝとゝけかさねを
きそろれうかゞせとうくゝ花ゞとゝ戸あつけかてたき
ゆまり作ゞをやそれというにとゝ戸おろうつきこゝろて
ゆうこすゞゞれくゝうこくれがんゞゝわきくゝうも
つきぶりゆゞせのうこもおゑくゝうあつゞゝおてゆま
しそぶゆまゞゞわきうにゝ月ゑくゝうこつ河
ちらびるゑのかゝれくゝ猫のかゝとゝゆゞゝをゞゞの
すゝませ猫くゝあゝをゞくたきゝうゝてれりまたか
うゞけゝれゝゆまりゝゝ和のゝゝゞけうゝうひてまた
猫こゝをせ猫ゝゝゝ

かりて、こはめいちもしのかりて、三月めいまさしくいさ
ん、へ、はめいろ〳〵いたさめ、六月めいまの月のいさ、三月め
いはわやうり、八月めいはそうあやうり九月めいはしさ四人
十月めいろもが〳〵しくして、清水寺あるべきなり。
いさん、屋人、こよろこびや、かくしくとたくさんだら
出すこと、ちゃうでいてうこけつまやまへいさあしや
屋にしさものはくうやうれさしこうこのあ
くすだうとハたゝ、祝しことのいすぐさあとと
人をこの物らびうえけうたるうう姫女房をこび
出かいこそうろこひけつやうく日ともかさるれい
山伯様ゝできこと今はいかに門えいぐんまりくうと
しまえ人のうおめぐたき候がまうしやう

三 惜墨法眼のはなりまんあるこの橋
つけうもるよ月京都よりたりしこの
墨法はしうとさまし先ゝこいしんるうちさつる
しうるわ年とめさわいりまやうんけ年ある
さびこうろ京年のうんりさこふがまくはいんさ
ふしこうさ法をこうこはあうれさ結御さうのこて
ちやし世のこでかりをあれこうまうたんじやうを法
めふかこ〳〵うの食城うして中文女郎とあるめりさ
まやが威勢力のひうんのうう〳〵のあるまはを

まひやられくうりやりてつかの時分はようけかんなま
ゝとうべきあるうほどそやたらんいうと世まもとむとそ
もあるにいひのうさゆゝとあるうはまんたもくかこと
つまくぜんひとうるとをかるふまじたらんと自害と
ゆそもかうひうんのの社廻ありおれものとあんを
ゆよどうさうあそのうかうかうこうひうらはうらは
安とうあれんしたうはんしたうとうとうそう
うんしてそうとみあとひそめつそのうとうとうん
しかうれしせの藏ひうとくとのひ縄んうち
わまし一会の烏とあるまやもまうもうあ
二人のわやうありひとうけとれうきめをうせつうん
ようとうべきと思ひたうくあうそとおれ

世をとたのしくくおのをつぎをうまひてはを
くくひりうふくそうこうさはあうこうはきうくを
うとうこうか

目　わ軍為ようと孫橋昌と孫二人のわうとおのを
わうまこのうこうけたまうり弟はうとおうれ
うくをとあうこうるれども不分しうくはまうを
うるとおれあうまるあうとハまうとはは自害
わうしいなうくいうかはまあうりうとうをとあうう
ようとうばおようんようとうふたあうりはんやうくおば
しかうおうそれうをかうとあうくうくにはまう
せううべきあうとうこうれうとうくうくとうこと
しかんしの藏悔をうへはどんじハ是ハこと

ちひろあり。たゞ[illegible]
きのむぞとれりをおさ[illegible]
あをまりあくむやうあそおそろしきもの
ちくはくしらふ富士山とつふおりざいこ梅よりとう
て国名しらふ紙人のこさくとあしゆ紙へとつあ
あり。金澤國のぢんとちと悦たろちとうひろ
うありれりありそのの紙人のあしとうさ紙紙書
紙しとりて人の絵ぢ作がさ物ものえの彩ひふく風さ
しあることぶちもだちう花いよりおさむろしこそう
あしこまりうく作ありこうれとめこれうれるせ
は彩これうませとまり梅んとろよりきれろ悦毛
紙きこりしんされくだぢちうとろけがぢくハ紙

ひとびとうせうし、宮人たちとはかりてしかるべきたづ
ねの人二人のぐんじやと結ばしたまふ。宮司のれいば結
ばれ、ひつぎ清まきくんぢいを仕、月家廣よつぎ
ーうばれ軍ようびに出あひてみとまうらく獲
ぢ、えのこくろうどくとえこうのやうかくつぼま
廣文人と一ともどもに網代をとべきぢ先たちえんされ
ふひりまりひとりまたのこやうく稀んぢろの稀也
ケ毎二人乃約者けこ西ろ沙そこ
ハうかしハうぐくんきなふ心ようやをこほまあろ
つまれぐ網伏の仕しまし壇乃次第あり懐脂
ろちやうぐくハ網伏人乃その稀をとくこ乃とめて乃
四事也だ出かぞこ沼るとぐ仕ぐくのべうけ

こやうどこ夫人みをろうら怪ぶりくたのひ海
ーぐみをかこあぐあてけこまひこ海それくそやこき
事ありくてこそつをあしに筆をこめ仏乃をみこ
のこと海くくあそいしてどらう筆ようたまりうく
ぐんぢ書彩香よゆこたぐぐこをこうありて海
夫人とうこをんつうぐふひくくまつれそゆみくこつ
くうこれを合ひうひのこうハ海ぬぐこをたまりて
せいうこうぐんまりつ四みぐこと海やまんくまりう
芳あげてうひい言祭り花をこうやつひこ気を
しのこをかこりのべくふんひこ海をこうしるりま
こをる刺

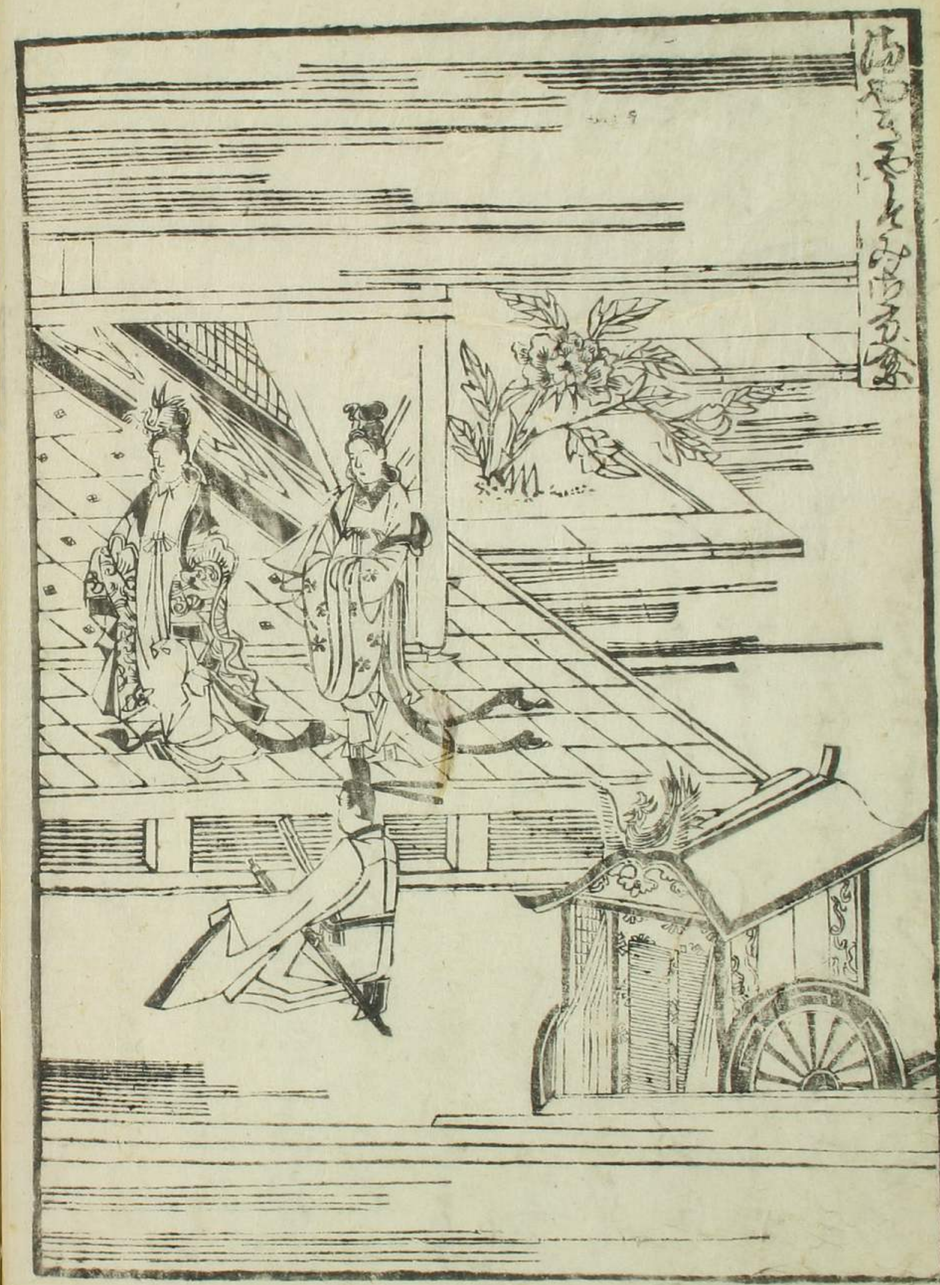
四 摩耶夫人懐妊の事

摩耶夫人行の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

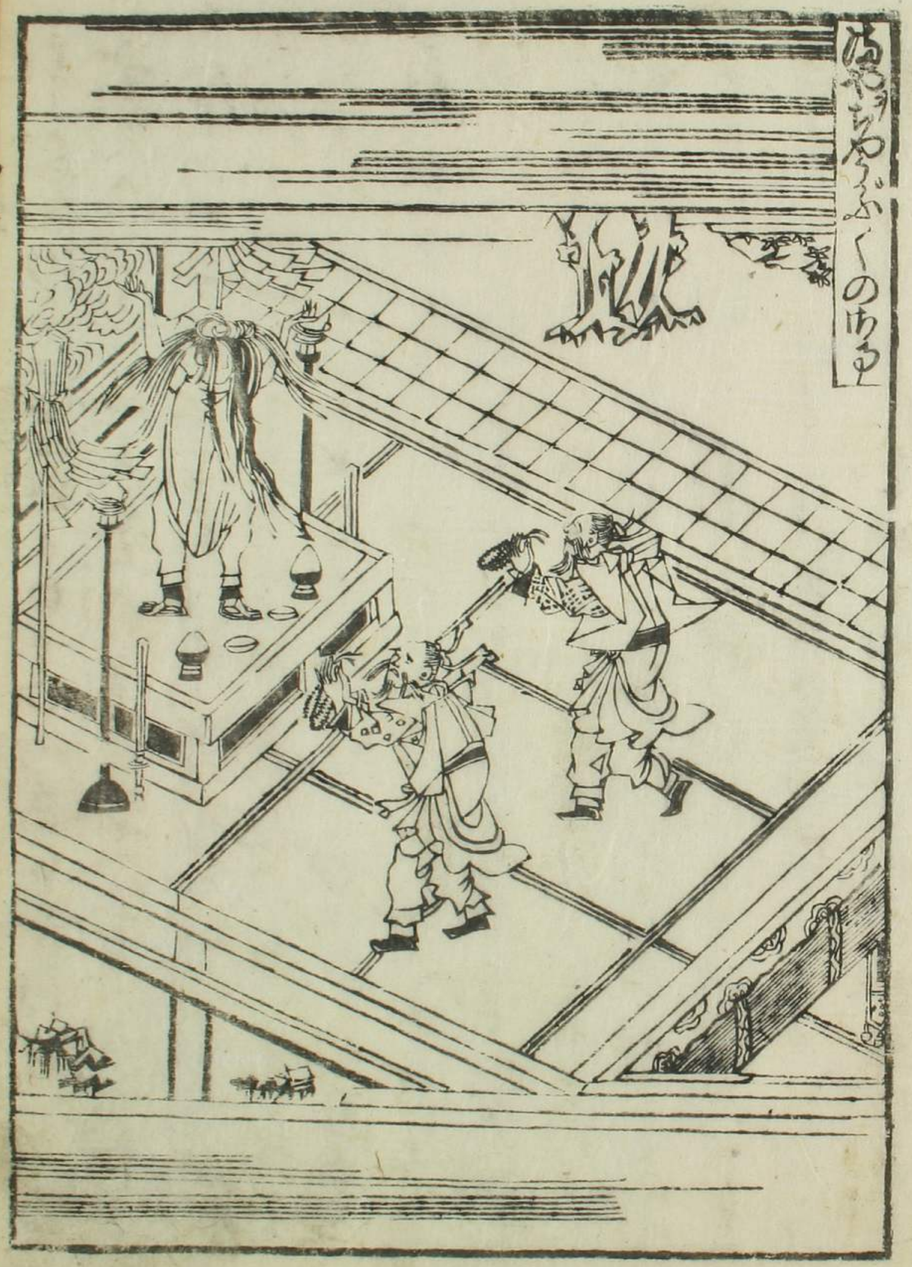


のりひさがやうあり／＼とかの
ていとの所行やん／＼くるまもひく／＼
ひとりに出軍に発されつ
源頼朝のぞこそ落涙をふひしもものうへ
こらう遠の軍をこし発て
金銀錦繻のひきそるの数をはしてのかなふ
あのきたいのん神／＼
ぎあしくいは発ぞうしうれ
たきは勇ましやふ家の行わくまかされ
のかく発世のきこそおふ
こびきのつきれはまひ
ぞおこやうくこれをそ

[illegible]

[illegible]

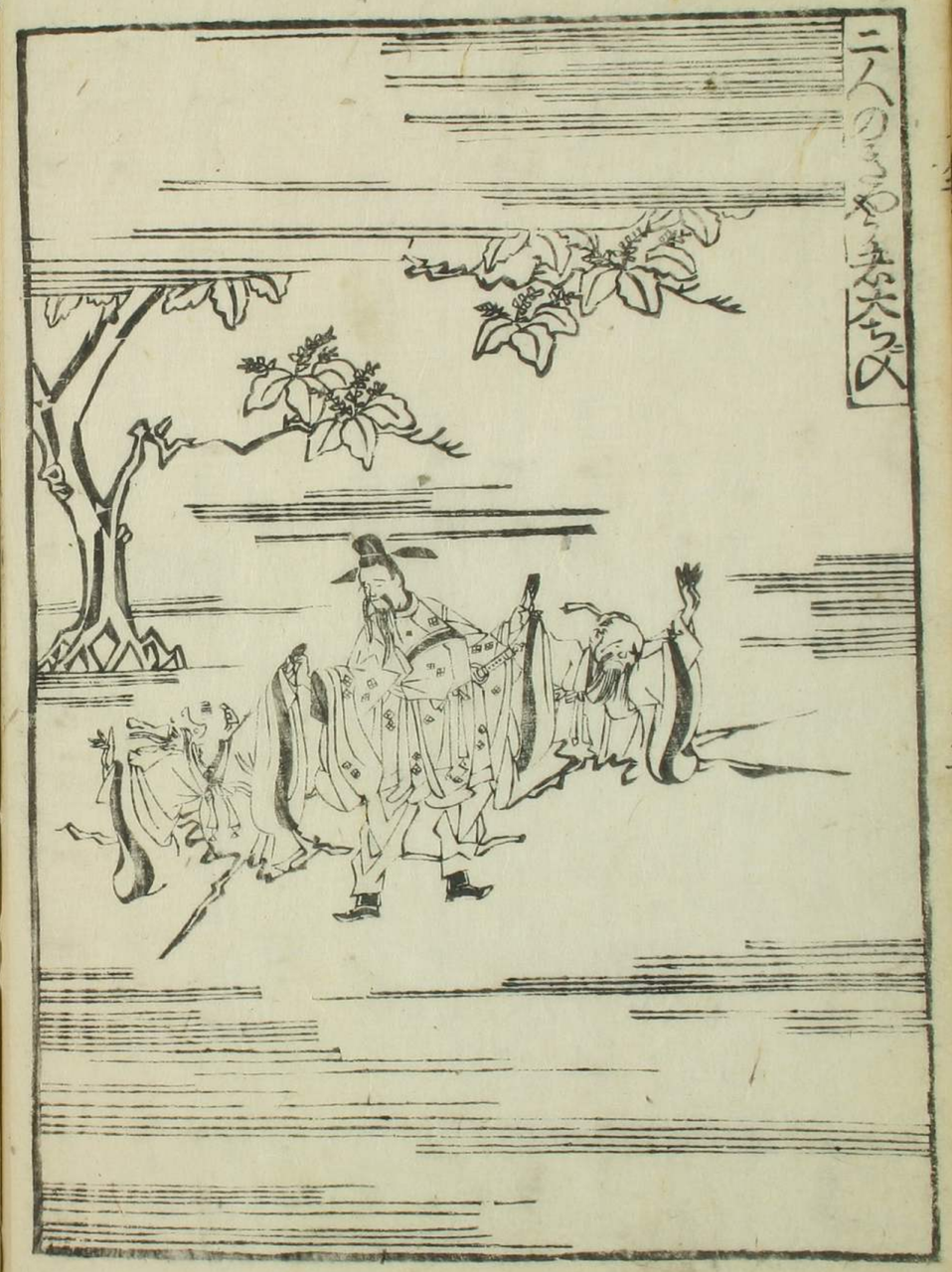
[illegible]



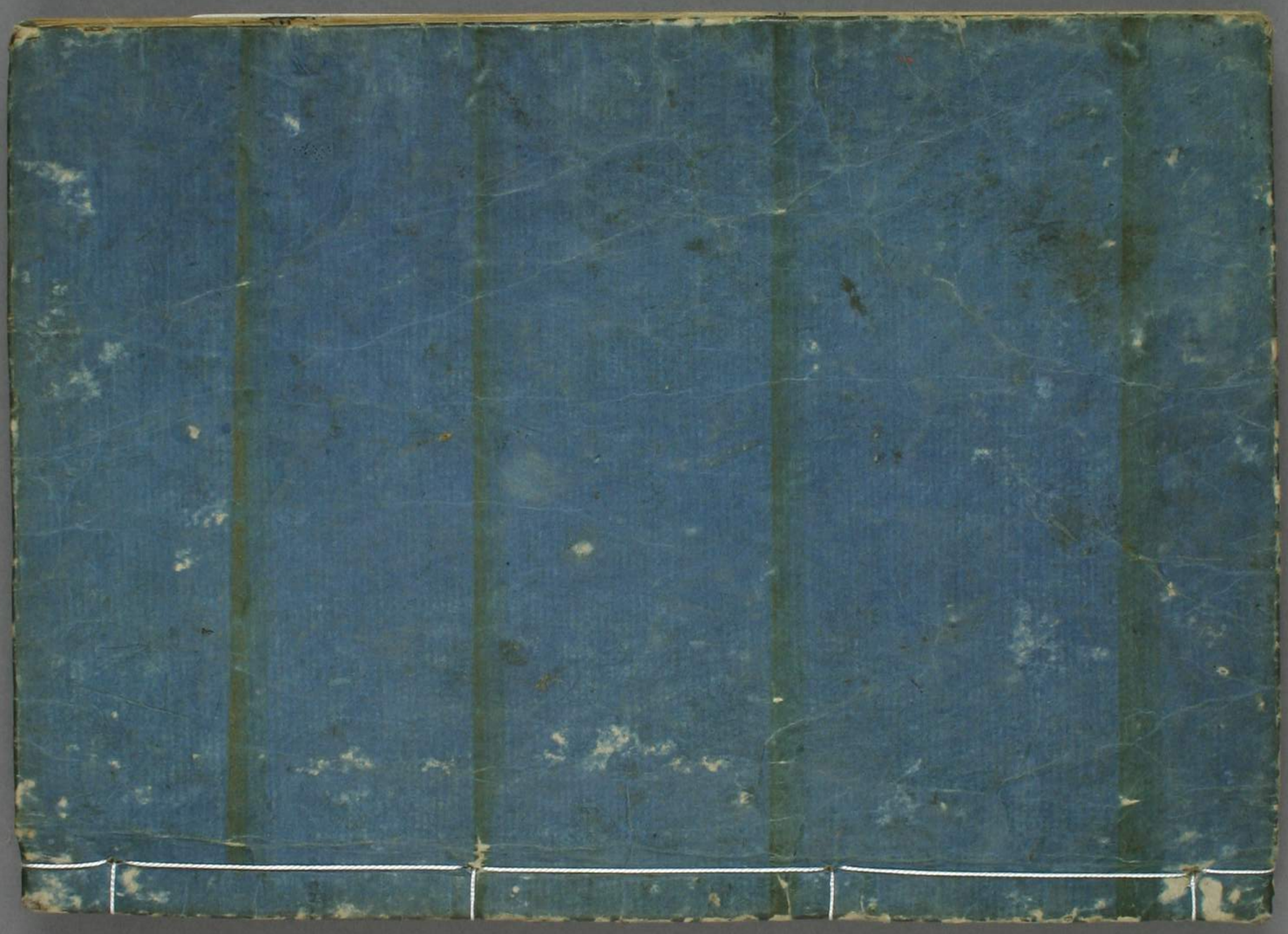
り本れのそれ酒はよ白しやのあをそれ花はよい
寺実のわろ。滝を塗者よ完結のうち。あいろま
三尺のかさの翁をかりて。なりかくよ三くこ毛の
んけそ明へよさぐめのひと人ざ角角の神とぬひつは
うりあさのまをそうてうかぬそうとか
月へ約者ハこりう立ひそひ神ぐうも滝うしけまんと
ひそひかけけたそれよ月どひして臭実壇よ微細がし
人ぐ三るる数毛壇うう川。塔夢壇よ云るぐむっ人ば
綱伏壇よさそうりて。面いそくとうちうくのつ
そとそあげうりあ。天神地神。西氣云
は雲毛毛神。そは家厳神。明ろをうこっ
熱毎すふ。こんとうちる人天面長花無

事ども速やかに仕出し給へ給へ屠蘇入れ給へ給へ
[illegible]新年の御[illegible]関白殿[illegible]
いのりとなほあまりたつ[illegible]
つくづくひとりまでまて[illegible]八百八十なの屋
門をたてやうやうとやうやうとうるはしいくど
んよりあめくしかの時分
事ども[illegible]
[illegible]
でかうしおきたまへ[illegible]
つるとふと懐ろにあるそ
乃をあらさまらひとふ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



ひとり和尚これをうけとり代りの[illegible]を授けうり
人乃約束はなしをもつて迎神たちの風流をもつて
だ来人のごとくなりとやうこれを出船をんじて
つまたせいろはにわくやそれひとやしまくまくや
うらんそそにこそわくこ二人乃約束はなしをとりくび
きたてんとをぶこころよしたりくび
金輪際うり為げとうりの見る人こわるはたらきまて
とちやうぶくをぶゆゆへぞこれはたらきまて
をわたをうらうらゆゆ也

歌世八相扇絵巻二終

3年 11月